Smithsonian Tropical Research Institute

eseb

NERC SCIENCE OF THE ENVIRONMENT

敵を欺く

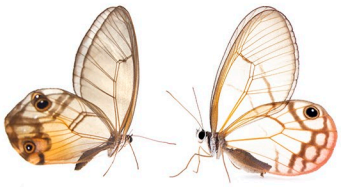
昆虫は食物連鎖の一部です。昆虫は光合成をする植物の主要な消費者ですが、彼ら自身（昆虫）も昆虫を捕食する動物の豊かな栄養源となります。よって、昆虫は全てのステージで鳥、コウモリ、トカゲ、クモやその他の森にいる生き物に捕食される危険に晒されています。他の動物の食事になるのを避けるために蝶は翅の色彩模様をカモフラージュに使ったり、目玉模様やとげを発達させ敵を惑わすなどるなど、いくつかの形質を進化させてきました。

Coenophlebia archidona, エクアドルのアマゾン

翅を使って食べられるのを防ぐ

カモフラージュ。 蝶の中には複雑なデザインの蝶もいて、それが森の中でのカモフラージュに役立っています。Tigridia acesta and Colobura dirceの２種は木の幹に長い間翅を閉じて動かずに止まっています。黒い縞模様がこれらの蝶の輪郭をぼかし、見つけにくくしています。

透明性。 他のタテハチョウ、例えばCithaeriasは透明です。彼らは暗い森の地面近くを住みかとしています。飛んでいると羽ばたきとともに消えては現れているように見えます。



目玉模様。 翅の模様の中には目玉に似たコントラストのある円形のデザインもあります。これらの目玉は捕食者をより大きな動物に出くわしたと思わせ、攻撃を頭・体からそらせ、欺く働きがあると考えられています。

偽の頭。 鳥が蝶を捕まえようとする時、主に頭を狙います。シジミチョウの中には捕食者が頭が後ろにあると思わせる触角に似た動く尾状突起を持っているものもいます。翅の色や模様も尾状突起の方に注意を背けるようにデザインされています。鳥が尾状突起を攻撃すると、この尾状突起がちぎれて蝶を逃がすのです。

若齢期のサバイバル

幼虫と蛹は特に捕食に晒さらされやすいです。しかし、彼らはいくつもの防衛戦略を持っています。

敵を怖がらせる。

赤、黄色、そして黒のコンビネーションの警戒色を使うものがいます。他には刺性の毛やトゲなどです。グループで集合体として生きる幼虫は同期的に体を反らせるなどして反応します。

ジャングルの中に隠れる

カモフラージュを使うのを好むものもいます。彼らは枯れ葉、木の欠片や鳥の糞に似ていたりします。成虫のように、目玉模様で攻撃を反らせるものもいます。

Mariposters 蝶の研究に関する知識を探る一連のポスター。ポスター＃3：略奪する捕食者。SebastiánMenaによるデザイン、写真、テキスト、訳：Chi-Yun Kuo（中国語）、Steven Van Belleghem（オランダ語）、Alexander E. Hausmann（ドイツ語）、Nakahara Shinichi（日本語）、Denise Dalbosco Dell'Agliio（ポルトガル語）、SebastianMena（スペイン語）、Antoine Couto（フランス語）、Mateo Rossi（イタリア語）。このポスターは、www.mariposters.si.edu からAttribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 Internationalライセンス（CC BY-NC-ND 4.0）でダウンロードできます。